

トピックス

中央区民文化財

新たに2件を登録

区では、郷土の文化財として保護する必要があると認められたものを「中央区民文化財」として登録しています。なお、平成26年度は4月1日付で、2件を登録し、「中央区民文化財」は、登録91件(指定4件)になりました。

所有者
(株)越後屋

概要
本資料は銀座二丁目目所在する、江戸期から呉服商を営む株式会社越後屋が所蔵する古記録および広告類です。安政6年(1859)の「大宝恵」という帳簿を最古とし、近代を中心に総数64点が確認されています。安政6年の「大宝恵」1点、近代の帳簿が6点、明治42年(1909)の店規則1点、明治生まれの番頭の記録類「思い出かれこれ」を含む3点、関東大震災前後の家屋履歴書とその添付図面5点、また大正期とみられる店内や従業員の写真が数点あり、それ以外に近代の店の売り出し案内状や広告類などが多数残

登録種別
区民有形文化財 歴史資料
所在地
銀座2-1-6-5



▶越後屋文書



健康ウォーキング (築地社会教育会館)

3月4日、歩きながら筋力アップを図り、転倒によるけがの防止やストレス解消にも役立つとされる健康ウォーキング講座が築地社会教育会館で開催されました。参加された皆さんはリラックスした雰囲気の中、基本動作の一つ一つを確認しながら、楽しく受講されていました。



▲八丁堀三丁目遺跡内朗惺寺跡出土蔵骨器
附 瀬戸・美濃産陶器 鳴海織部向付

登録種別
区民有形文化財 考古資料
所在地
築地4-15-1 築地社会教育会館地下文化財倉庫
所有者
中央区
概要
本資料は、昭和61年2月から3月にかけて実施された八

登録種別
八丁堀三丁目遺跡内朗惺寺跡出土蔵骨器
附 瀬戸・美濃産陶器 鳴海織部向付

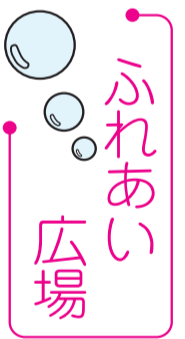
つています。本資料は江戸期から続く銀座の商店の古記録類であり、そこから店の経営や年中行事などの実態に加え、明治期から昭和中期に至るまでの銀座のまちの様相を読み取ることも可能です。銀座は明治期以降急速に発展したまちであり、煉瓦街建設をきっかけとして多くの商店や住人が入れ代わりました。その中で越後屋は江戸期から当地で商売を続けている老舗であり、江戸期まで遡る資料を所蔵している希少な存在です。こうしたことから、本資料は銀座の商店およびまちの歴史をたどる上で重要な資料です。

丁堀三丁目19番(一次調査および平成13年9月から12月にかけて実施された八丁堀三丁目20番(二次調査)における発掘調査で日蓮宗の興栄山朗惺寺の墓域より出土しました。これらは、陶磁器・土器による蔵骨器であり、主に火葬骨を納めて埋葬されたものです。本遺跡では、他に木製のものも認められますが、遺存度も保存状態の良好な陶磁器・土器(土器は蓋1点のみ)について、一次調査では11点、二次調査では12点の合計23点を選別しました。また、本遺跡出土の蔵骨器には蓋が残っていたものも多く、蔵骨器に含められました。そして、一次調査において、墓地の下層面より出土した、ほぼ完存の瀬戸・美濃産陶器で、茶陶に用いられたと考えられる鳴海織部の向付一点を附としました。儒教思想の影響により、火葬から土葬へと転換していく近世はじめころの埋葬方法の移行を知る上で、火葬墓のあり方は欠くことのできない要素であり、中でもそれが端的に現れる蔵骨器は重要な資料です。御府内でも、さらにその中心域である江戸城の郭内(浅草橋御門など、城門の内側の範囲)において、近世はじめころの寺墓が発掘調査された例は希少です。なお、附の鳴海織部の向付は、当時の寺院における文化の一端を示す資料であり、中央区内ではほぼ完全な状態の資料として唯一のものです。

▶中央区地域スポーツクラブ
大江戸月島事務局長の矢子達哉さん



※問合せ先
郷土天文館「タイムドーム明石」
☎(3546)5537



地域に根付く「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」

昨年2月17日に月島地域を活動場所として設立された「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」は、設立から1年を経て、会員数630人を超えるクラブに発展、注目を集めるとともに、これからの活動に期待が持たれています。「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」は文部科学省が生涯スポーツ社会実現のため全国展開を図る総合型地域スポーツクラブです。子どもから高齢者まで、「いつでも、どこでも、いつまでも」気軽にスポーツや文化活動に参加でき、地域の皆さんによって自主的・主体的に運営されています。

今回は、クラブの矢子事務局長にお話を伺いました。矢子さんは月島で健康運動指導士として会社を経営する傍ら、日本体育協会公認のクラブマネージャー・スポーツプログラマーの資格を持つスポーツのエキスパートです。クラブの設立に至る経緯については、中央区スポーツ推進委員による勉強会や検討会を経て、設立準備会へ移行するにあたり、地域の青少年委員やPTA・町会役員の加入で組織強化が図られました。矢子さんはその時に参加されたそうです。メンバーとなつてからは、「プレ体験会の準備や関係団体との調整、規約づくりやホームページの立ち上げ、設立総会の準備などなど、初めてのことはばかりで何をやるにも手探り状態ではありましたが、メンバーとともに楽しくやらせていただきました。」と会の中心として奔走された様子を振り返られています。

活動内容については、月島第一・第三小学校ほかで学校の空時間を利用するなどして、キッズチアダンスや児童体操などの子どもを対象としたプログラムから、一般向けのテニス、高齢者向けのエンジョイ体操まで全体で18種目36教室を実施されています。また、このほかにも、昨年11月には、元オリンピック選手から直接指導を受ける都の「アスリート・サイクル地域貢献モデル事業」の主管団体に選出され、4種目16回にわたる教室を開催したり、東京オリンピック・パラリンピック選手村予定地周辺の清掃を企画、実施したりと、クラブの認知度をアップさせるためのさまざまな活動を積極的に展開されています。

また、クラブのこれからについて伺いますと、「スポーツ人口の裾野を拡げるためには、子どもの頃のスポーツ体験やスポーツに関わりを持つことが重要。その機会を提供することで、クラブが担うスポーツ振興や地域コミュニティといった役割を果たしていきたい。」と、多くの皆さんにスポーツを楽しんでいただきたいと、力強く語っていただきました。課題については、「10歳未満の幼児や児童が全体の6割強と多数を占め、子ども向けのプログラムが中心となっています。多世代の加入が望まれることから、大人の参加や親子で一緒に参加できるプログラムを充実させ、会員を取り込んでいくこと。」と教えていただきました。最後に、6年後のオリンピック・パラリンピックの東京開催に際しては、クラブとして何らかの形で関わっていきたいと話されていました。オリンピック・パラリンピックの選手と直接触れ合う機会を作り、会員の皆さんとともに貴重な一ページを飾ることができればと期待を膨らませていました。



▶フットサル教室の親子でボールと触れ合う様子